目標および成果指標の設定　記入様式

活動団体名：　一般社団法人サスティナビリティセンター

上位関連計画にみる地域の将来
○パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26％削減、さらに2050年までに80％削減
○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24％、
2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質ＧＤＰ）35％減。
○現在の人口：12732人（2019.10末）、将来：8897人（2030年）、6000人（2045年）（町HP、町人口ビジョン）
○地域の総合計画に示された将来像　「森里海ひといのちめぐるまち南三陸」→目標：2025年）
○地域の環境分野の上位計画の将来目標　現状：●●→目標：●●（●年）　現状：●●→目標：●●（●年）

→

①目指すべき姿
※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください
○「森里海ひと　いのちめぐるまち　南三陸」
・地域でいのちめぐる理念に合致した価値のある産品が生産されている。
・地域でいのちめぐる理念に合致した価値のあるツアーや活動が起こっている。
・地域の暮らしにいのちめぐる理念に合致した価値ある産品や活動が取り入れられている。
・いのちめぐる理念に合致した価値あるもの（こと・暮らし）とは、自然資本を毀損しない方法で、できるだけ地域の森里海あるいは人材を活用して生み出されれたもので、それを持つこと、使うこと、関わることが誇りになるようなものを指す。それらの商品やサービスは、売手良し・買手良し・世間良し・自然資本良しの四方良しを実現し、その取り組みが広がれば広がるほどSDGs（持続可能な世界の達成）に近づくことを前提とする。
・価値を生み出す源泉が次世代にしっかり伝わるための教育が地域で行われ、それを目指して人が集まっている。
・これらの取り組みを支える地域の仕組みができている。
・しなやかに、したたかに、存続し、関わる人が笑顔になる地域。
・暮らし方が可視化され、なりゆきの未来と望ましい未来をみんなが共有できる地域。
・ひとのいのちと自然のいのちがともにめぐっているまち

②具体的なアクション
※誰が何をするのか、主なものをお書きください。
○サスティナビリティセンター：ビジョン、プロジェクトづくりと仕組み作りを参加者と一緒に行い、その動きを活発化する。
○参加企業・個人：プロジェクトや仕組み作りに参加し、本業や暮らしの中で地域内循環と生業づくり、誇りづくりに注力する。
○行政：ラムサール湿地保全・活用計画の作成主体となるなど、行政にしかできない役割を果たすとともに、いのちめぐるまちへ向けた仕組み作りを協働し、理念条例や調達コードなどの施策に反映することで、民間の活動を支援する。

→

↓　　↓

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値（2020年度末）	実績値（2020年度末）	単位
環境	自然資本の状態見える化					
	・ラムサール湿地保全活用	実施面積	ー	計画策定		
	・全町的な森林管理ロードマップ	ロードマップ組み込み面積	ー	2,000		ha
	・志津川湾の魚類相把握	時系列データ数	ー	100		セット
	・志津川湾の物理化学環境計測	時系列データ数	ー	20		セット
経済	域内循環の見える化	生ゴミ収集率～液肥使用量	2,645	2645		t
		木質ペレット生産量	ー	生産を決定		
		南三陸版産業連関表	ー	製作を決定		
		基金の設立、基金事業	ー	基金設立		
	地消地産 （地域で使うものは地域でつくる）	再生可能エネルギー導入率	不明	木質ペレット 工場設置		
		事業具体化検討件数		5		件/ 年
	地産外商	町外販売額				
		インバウンド来訪者数		2,000		人
社会	災害への備え	収穫量（コメ）	691	690		t
		山林の経営計画参入面積				
	価値あるもの・ことの創出	事業創出プラットフォーム				
		FSC認証林面積	1,525.89	1,525.89		ha
		ASC認証養殖場面積	150	150		ha
	学びの地域づくり	里海シンポジウムの開催		事業実施		
		教育旅行受入数		6,000		人

→

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値（2020年度末）	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	自然資本の価値向上						
	・ラムサール湿地保全活用	実施面積	ー	計画策定	2,030	500	ha
	・全町的な森林管理ロードマップ	ロードマップ組み込み面積	ー	2,000	2,025	4,000	ha
	・志津川湾の魚類相把握	時系列データ数	ー	100	2,022	300	セット
	・志津川湾の物理化学環境計測	時系列データ数	ー	20	2,022	30	セット
	→志津川湾生態系予報モデル	モデル構築と運用	ー		2025	構築・運用	
経済	経済自治	生ゴミ収集率～液肥使用量	2,645	2645	2030	3000	t
		木質ペレット生産量	ー	工場設置	2030	1,500	t
		基金事業費	ー	基金設立	2030	10,000	千円
		基金事業による人材育成件数			2030	1,000	人
		地産エネルギー導入率			2030	30	%
	価値ある仕事・価値ある企業	事業生産額	ー	ー	2030	500,000	千円
		雇用創出数	ー		2030	50	人
社会	レジリエントな地域社会	収穫量（コメ）	691	690	2030	690	t
	価値ある暮らし・誇りある暮らし	SDGs達成状況					
		FSC認証林面積	1,525.89	1,525.89	2030	3,000	ha
		ASC認証養殖場面積	150	150	2030	300	ha
		人口（転入-転出）	-137		2030	±0	人
	学びの地域づくり	教育旅行受入数		6,000	2030	12,000	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

短期目標は、いのちめぐるまちというビジョンがより具体的になるように、できるだけ数値で見て取れる環境・経済・社会の指標を設定し、地域の現状把握と将来目標を定められる状態となることを意識した。
自然資本を毀損しない事業導入を進めることで、地域内の雇用が生まれ、地域を訪れる人も増加する。地域を訪れたことがキッカケとなり、魅力的な事業に従事する移住者も増えるという好循環モデルを描いた。
事業が環境に与える影響は、志津川湾の生態系予測モデルなどにより検出できるようにし、里山・里海での環境認証面積の増加を目指すことで、生物多様性にも配慮したまちづくりが進む計画とした。魅力的なまちづくりが実現しているかどうかは、転出人口と転入人口の比較により評価することができると考えた。